

安心協 I L A S  
2016年度 最終報告書

2017年3月31日  
安心ネットづくり促進協議会  
普及啓発作業部会  
I L A S 検討サブワーキング

## 内 容

はじめに .....	-3-
1. 本年度の活動方針と体制 .....	-4-
1-1. 調査対象	
1-2. テスト問題	
1-3. テスト形式	
1-4. ILAS 検討サブワーキング体制	
1-5. テスト実施協力者の一覧	
2. 調査結果総論.....	6-
2-1. 対象別×設問別の分析	
2-2. 対象別×属性別の分析	
2-3. 対象別×利用状況別の分析	
2-4. 対象別×啓発経験別の分析	
2-5. 対象別×インターネットの適切利用自信別の分析	
2-6. 保護者のしつけに対する自信×正答率の分析	
2-7. その他	
3. 安心協 I L A S の活動総括 .....	-17-
3-1. 啓発活動への連携	
3-2. 来期に向けた課題	
4. 来期の活動方針 .....	-19-
5. 安心協 I L A S の本年度活用事例 .....	-20-

はじめに

今回4年目となる「安心協 I L A S」の調査と検証は、青少年のインターネット環境整備に取り組む安心ネットづくり促進協議会が、活動の一環として主に保護者と青少年を対象にインターネット・リテラシーを可視化しようとする試みである。

引き続き総務省が青少年のインターネット上の危険・脅威に対応する能力を可視化するために定めている指標：I L A S (Internet Literacy Assessment indicator for Students) の7つのリスク分類を採用する形で、研修会の機会等を活用して比較的短時間で誰でも協力可能なテストとするために、平易な表現で最新かつ具体的な設問内容に努め、多くの関係者の協力を得て今年度の調査を完了した。

今回分析、検証した結果は単なる分析にとどまらず、青少年や保護者のインターネット・リテラシー向上に取り組む当協議会及び会員企業・団体等の各地での普及啓発活動や、安心安全サービスの提供・改善につなげていくことを目指している。

## 1. 本年度の活動方針と体制

安心ネットづくり促進協議会の調査研究委員会傘下で活動を行ってきた I L A S 検討作業部会については、2015 年度から普及啓発広報委員会（普及啓発活動作業部会）傘下のサブワーキングとして移管し、活動を実施してきた。安心協 I L A S では総務省が ILAS の取り組みにより定義をした 7 項目のリテラシー分類をもとにして、小学生から大人まで短時間で実施ができるテスト及び解説集を作成。啓発活動への連携を目的として、小学生から保護者までを幅広く対象として調査を行った。

### 1-1. 調査対象

総務省 I L A S は高校生をインターネット・リテラシーの指標対象として調査するのに対し、安心協 I L A S では、啓発活動への連携を目的として、小学生から保護者までを幅広く対象とする。また保護者のアンケートにおいては、小学生を持つ保護者、中学生を持つ保護者、高校生を持つ保護者が分かるように行い、実施においてもバランスを鑑みて行うこととする。

※インターネットを安心安全に活用するためのリテラシー分類（大分類 3・中分類 7）

1. インターネット上の違法コンテンツ、有害コンテンツに適切に対処できる能力	
1-a	違法コンテンツの問題を理解し、適切に対処できる
1-b	有害コンテンツの問題を理解し、適切に対処できる
2. インターネット上で適切にコミュニケーションができる能力	
2-a	情報を読み取り、適切にコミュニケーションができる
2-b	電子商取引の問題を理解し、適切に対処できる
2-c	利用料金や時間の浪費に配慮して利用できる
3. プライバシー保護や適切なセキュリティ対策ができる能力	
3-a	プライバシー保護を図り利用できる
3-b	適切なセキュリティ対策を講じて利用できる

### 1-2. テスト問題

総務省が I L A S の取り組みにより定義をした 7 項目のリテラシー分類を元に作成。問題の種類は【保護者・中高生用】を基本として、読解力に依存しない調査とするため【小学生用】を別に作成。全 2 パターンで各 21 問とする。基本的には大幅な修正は行わない指針とするが、以下の視点で設問の修正が必要なものは修正を加えることとした。

- ①「意味が分からない」率が著しく高い
- ②正答率が他の設問に比べ大きくかい離がある（カテゴリ分析などでバランス悪い）

### 1-3. テスト形式

【保護者・中高生用】「3択式」

【小学生用】「○×2択式」

上記に「言葉や内容の意味が分からない」、「意味がわからない=△」を選択肢に加え、問題の理解度を正誤とは別の観点で分析を行うこととする。

### 1-4. ILAS 検討サブワーキング体制

以下の体制でサブワーキングの運営を行った。

リーダー 齋藤 長行 氏（株式会社 KDDI 総合研究所 研究主査）

参画団体・事業者 ※順不同

内閣府、総務省消費者行政課、文部科学省、警察庁、インターネットコンテンツ審査監視機構、一般社団法人モバイルコンテンツ審査・運用監視機構、NPO 法人企業教育研究会、KDDI 株式会社、ソフトバンク株式会社、エースチャイルド株式会社、（メンバー 12名）

### 1-5. テスト実施協力者の一覧

No	都道府県	実施	対象	協力人数
1	愛媛県	松山市小中学校PTA連合会	保護者	280
2	東京都	東京公立高等学校PTA連合会	保護者	47
3	北海道	北海道伊達緑丘高等学校	高校生	72
4	岐阜県	岐阜県立飛騨神岡高等学校	高校生	132
5	高知県	高知県立宿毛高等学校	高校生	22
6	大阪府	羽衣学園	高校生	190
7	千葉県	香取市立佐原中学校	中学生	204
8	千葉県	館山市立船形小学校	小学生	90
9	愛媛県	西条市立小松小学校	小学生	54
10	愛媛県	西条市立壬生川小学校	小学生	98
11	福島県	白河市教育委員会	保護者	550
12			中学生	470
13			小学生	357
14		Web 調査	保護者	500
	<b>8 都道府県</b>	<b>全箇所 14 箇所</b> 保護者 4 箇所 青少年 10 箇所 (高校 4 / 中学校 2 / 小学校 4)	保護者 1,377 人 高校生 416 人 中学生 674 人 小学生 599 人	<b>3,066 人</b>

協力依頼にあたり、「一般社団法人全国高等学校PTA連合会」、「公益社団法人日本PTA全国協議会」、「白河市教育委員会」に実施趣旨のご理解、ご協力をいただいた。

## 2. 調査結果総論

### 2-1. 対象別×設問別の分析

図表 2-1-1 と図表 2-1-2 より、保護者の正答数の中央値は 20・最頻値は 21、高校生の中央値は 18・最頻値は 19 / 20、中学生の中央値は 18・最頻値は 21、小学生の中央値は 16・最頻値は 20 という結果から、正答数の分布図は高得点層に偏った結果となった。

図表 2-1-3 では、7 項目のリテラシー分類別の正答率を示しており、全体的に「1a 違法情報への対応」の正答率が低く、中学生では加えて「1b 有害情報への対応」の正答率が低く、小学生では加えて「3a 適切なプライバシー保護」が著しく低い結果となった。

図表 2-1-4 より、全対象に共通して「no9. 歌詞の著作権」、「no11. 出会い系サイト規制法の理解」、「no19. セキュリティソフトの知識」の正答率が低い傾向となった。また「no14. 環境整備法」に関しては、保護者の正答率は高かったのに対して、高校生、中学生では低い結果になった。

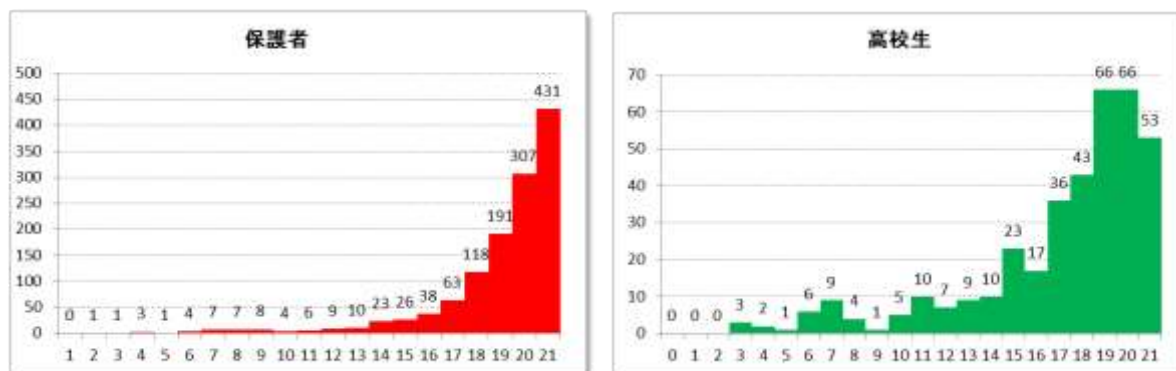
図表 2-1-5 では、設問ごとの不認識率（各設問の全回答の中で、「言葉や内容の意味がわからない」を選択した割合）を示しているが、「no19. セキュリティソフトの知識」に関しては、全対象に共通して不認識率が高い傾向。中学生では「no3. 著作権侵害」「no8. ID 交換掲示板に対する理解」「no14. 環境整備法」「no18. クレカの使用範囲」と「no21. ウィルス対策」の不認識率が高い。

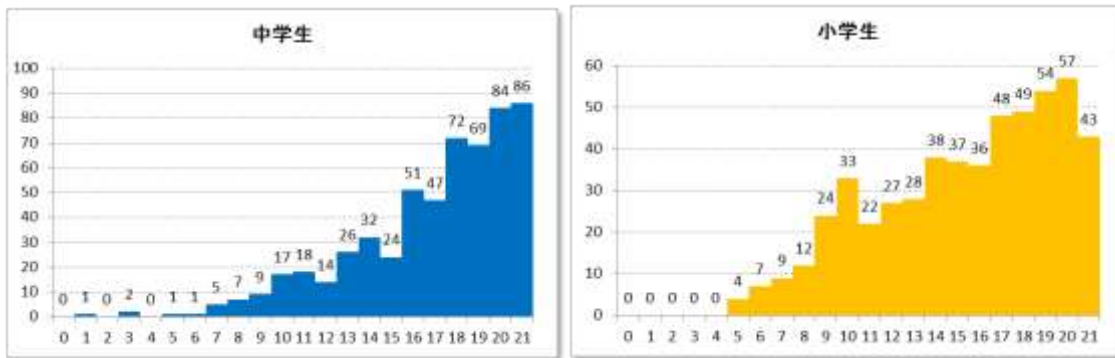
図表 2-1-1. 基本統計量

	■保護者	■高校生	■中学生	■小学生
正答率	90.5%	81.5%	80.6%	73.3%
中央値（メジアン）	20	18	18	16
最頻値（モード）	21	19/20	21	20
標準偏差	2.82	4.00	3.69	4.13
有効数（分析対象数）	1,258	371	566	528

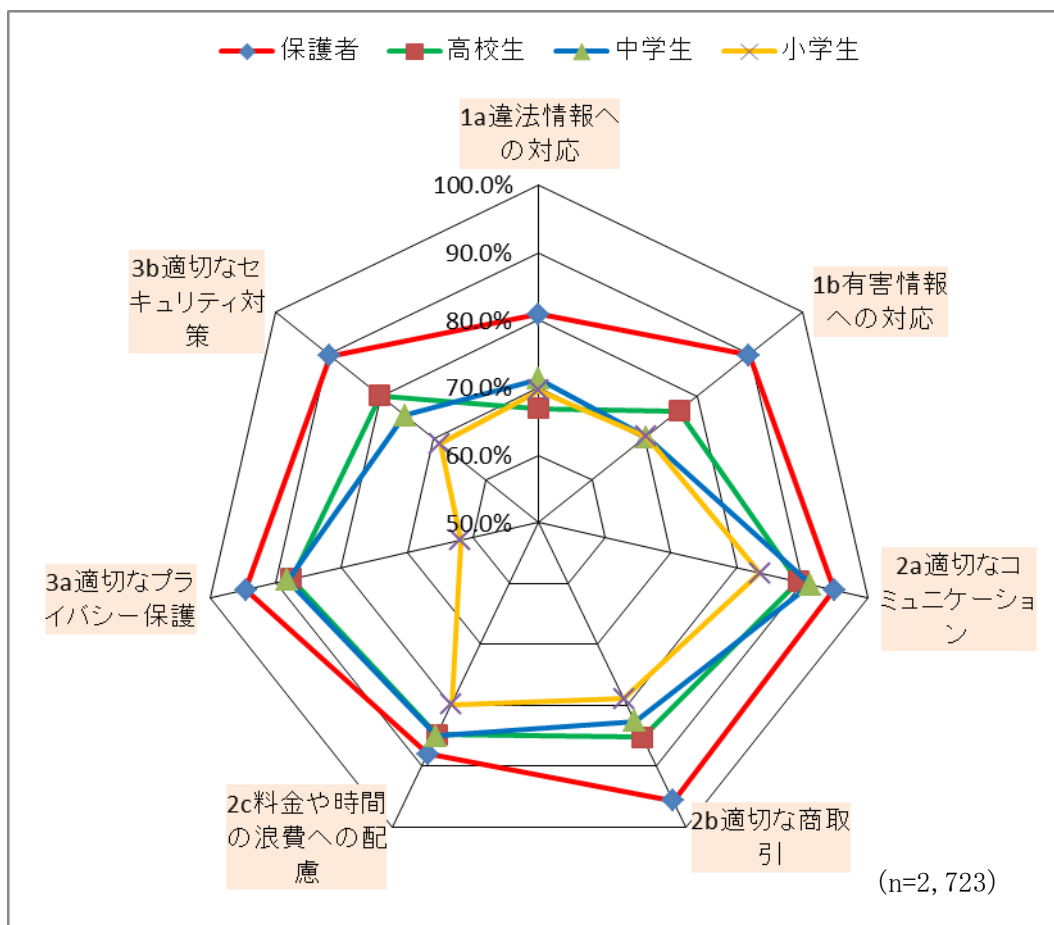
※無効条件を「解答空白が 1 個以上」もしくは「言葉や内容の意味が分からない」を 11 個以上選択したものを除外して集計対象とした。

図表 2-1-2. 正答数分布図





図表 2-1-3. 7項目のリテラシー分類別の正答率



	保護者	高校生	中学生	小学生
1a違法情報への対応	80.9%	66.9%	71.3%	69.6%
1b有害情報への対応	89.7%	76.5%	70.3%	70.4%
2a適切なコミュニケーション	94.9%	89.4%	91.2%	83.6%
2b適切な商取引	95.7%	85.3%	82.6%	79.0%
2c料金や時間の浪費への配慮	88.0%	84.9%	85.1%	79.9%
3a適切なプライバシー保護	94.5%	87.6%	88.2%	61.9%
3b適切なセキュリティ対策	89.6%	80.1%	75.4%	68.8%

※網掛けは、対象ごとに正答率の下位2分類を示している

図表 2-1-4. 保護者と青少年の設問ごとの正答率（詳細表）

設問	リスク分類	設問の趣旨	正答率 (%)			参考 <sup>1</sup>
			保護者	高校生	中学生	小学生
1	2c 料金時間への配慮	ゲームの利用時間に対する配慮	90.5%	85.2%	80.6%	96.0%
2	1b 有害コンテンツ理解	フィルタリング設定の必要性	91.5%	84.4%	81.3%	74.8%
3	1a 違法コンテンツ理解	違法ダウンロード：著作権侵害	86.1%	80.6%	80.6%	71.0%
4	2a 適切なコミュニケーション	ネットいじめに対する理解	94.1%	89.5%	92.0%	77.3%
5	3a プライバシー保護	アプリに対する理解	95.2%	89.2%	89.2%	83.7%
6	3a プライバシー保護	撮影と掲載許可	97.4%	94.9%	96.5%	75.2%
7	3b 適切なセキュリティ対策	歩きスマホに関する理解	92.2%	78.7%	77.0%	79.0%
8	1b 有害コンテンツ理解	ID 交換掲示板に対する理解	86.3%	78.7%	74.4%	72.2%
9	1a 違法コンテンツ理解	歌詞の著作権に対する理解	82.8%	57.1%	71.4%	67.8%
10	2c 料金時間への配慮	ゲーム課金の対応と知識	78.3%	79.0%	82.9%	66.5%
11	1a 違法コンテンツ理解	出会い系サイト規制法の理解	73.8%	63.1%	61.8%	69.9%
12	2c 料金時間への配慮	ネット依存に対する理解	95.1%	90.6%	91.9%	77.1%
13	2a 適切なコミュニケーション	揉め事があつた際の対応	94.2%	88.1%	90.1%	93.8%
14	1b 有害コンテンツ理解	環境整備法に対する理解	91.3%	66.6%	55.3%	64.2%
15	3a プライバシー保護	掲示板への対応	91.0%	78.7%	79.0%	26.9%
16	2b 電子商取引の理解	不正請求への対応	94.4%	88.9%	86.2%	94.5%
17	2a 適切なコミュニケーション	不適切投稿リスクの理解	96.3%	90.6%	91.5%	79.7%
18	2b 電子商取引の理解	クレカの使用者範囲の理解	96.1%	78.2%	71.6%	63.3%
19	3b 適切なセキュリティ対策	セキュリティソフトの知識	82.0%	75.5%	69.6%	67.6%
20	2b 電子商取引の理解	怪しげな儲け話への対応	96.7%	88.7%	90.1%	79.2%
21	3b 適切なセキュリティ対策	ウイルス感染に対する理解	94.6%	86.3%	79.7%	59.7%

※正答率の赤字は、正答率 80%未満を示している

※設問部分の網掛けは、共通して正答率が低い設問を示している

<sup>1</sup> 保護者・高校生・中学生は同様のテスト問題（3択式）で実施したため、結果の比較分析が可能であるが、小学生は別のテスト問題（〇×式）であるため、保護者・高校生・中学生との比較対象分析はせず、参考データとする。



図表 2-1-5. 保護者と青少年の設問ごとの不認識率<sup>2</sup> (詳細表)

設問	リスク分類	設問の趣旨	不認識率 (%)			参考
			保護者	高校生	中学生	小学生
1	2c 料金時間への配慮	ゲームの利用時間に対する配慮	6.6%	5.1%	8.8%	0.6%
2	1b 有害コンテンツ理解	フィルタリング設定の必要性	4.3%	5.4%	8.0%	15.2%
3	1a 違法コンテンツ理解	違法ダウンロード：著作権侵害	3.3%	5.1%	10.1%	21.6%
4	2a 適切なコミュニケーション	ネットいじめに対する理解	0.6%	1.6%	2.5%	16.3%
5	3a プライバシー保護	アプリに対する理解	1.8%	4.9%	5.3%	11.4%
6	3a プライバシー保護	撮影と掲載許可	0.8%	0.5%	1.8%	3.6%
7	3b 適切なセキュリティ対策	歩きスマホに関する理解	0.2%	1.1%	2.7%	6.8%
8	1b 有害コンテンツ理解	ID 交換掲示板に対する理解	2.3%	4.9%	14.3%	21.0%
9	1a 違法コンテンツ理解	歌詞の著作権に対する理解	1.7%	4.6%	5.5%	13.8%
10	2c 料金時間への配慮	ゲーム課金の対応と知識	8.9%	6.2%	6.4%	14.4%
11	1a 違法コンテンツ理解	出会い系サイト規制法の理解	3.5%	5.1%	8.3%	15.9%
12	2c 料金時間への配慮	ネット依存に対する理解	1.0%	1.6%	3.5%	13.4%
13	2a 適切なコミュニケーション	揉め事があった際の対応	1.8%	5.9%	4.8%	2.1%
14	1b 有害コンテンツ理解	環境整備法に対する理解	3.1%	10.0%	21.7%	24.2%
15	3a プライバシー保護	掲示板への対応	2.1%	7.0%	7.6%	15.9%
16	2b 電子商取引の理解	不正請求への対応	0.9%	2.7%	3.4%	1.7%
17	2a 適切なコミュニケーション	不適切投稿リスクの理解	1.7%	3.0%	5.5%	16.1%
18	2b 電子商取引の理解	クレカの使用者範囲の理解	0.6%	7.3%	14.0%	18.6%
19	3b 適切なセキュリティ対策	セキュリティソフトの知識	6.3%	11.6%	18.4%	25.8%
20	2b 電子商取引の理解	怪しげな儲け話への対応	1.3%	4.6%	7.1%	14.8%
21	3b 適切なセキュリティ対策	ウイルス感染に対する理解	2.3%	6.5%	14.3%	21.8%

※不認識率の赤字は、認識不足率が10%以上を示している

※設問部分の網掛けは、共通して不認識率が高い設問を示している

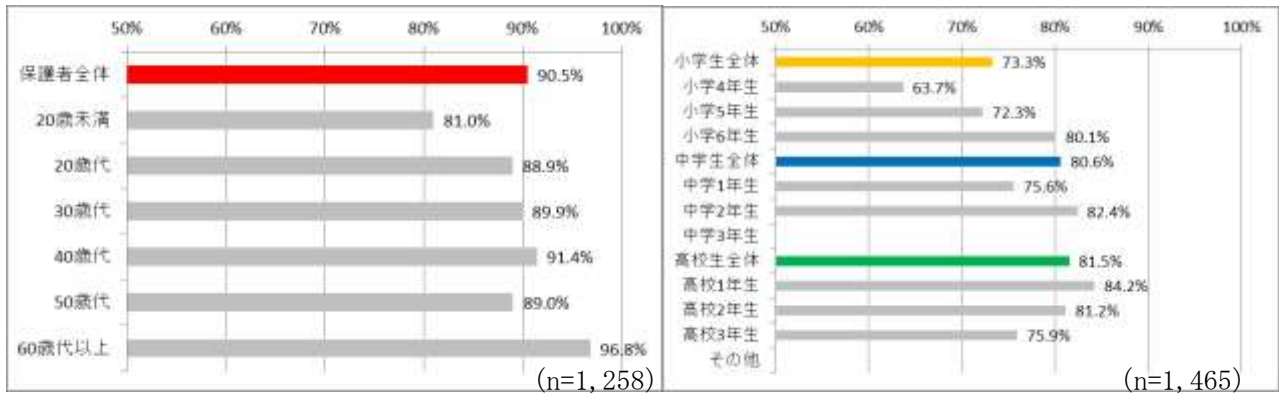
<sup>2</sup> 各設問の全回答の中で、「言葉や内容の意味がわからない」を選択した割合

## 2-2. 対象別×属性別の分析

図表 2-2-1 より、保護者の正答率は年齢ごとではほぼ変わらず、小中学生では学齢が低くなると正答率が低くなる結果となった。

図表 2-2-3 では、性別ごとの正答率を示しているが、女性の正答率が高い結果となった。

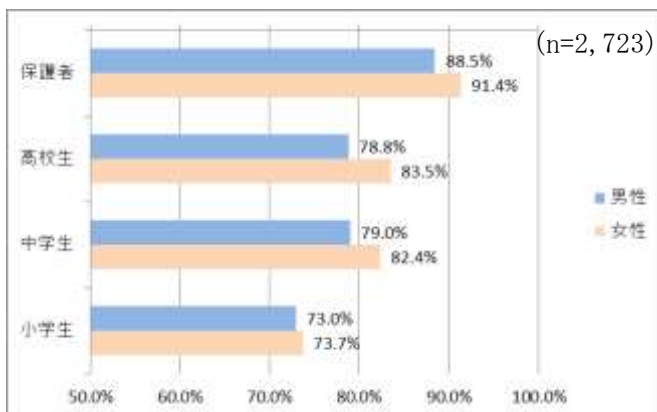
図表 2-2-1. 保護者と青少年の正答率と内訳



図表 2-2-2. 保護者と青少年の正答率（経年比較）



図表 2-2-3. 性別ごとの正答率



### 2-3. 対象別×利用状況別の分析

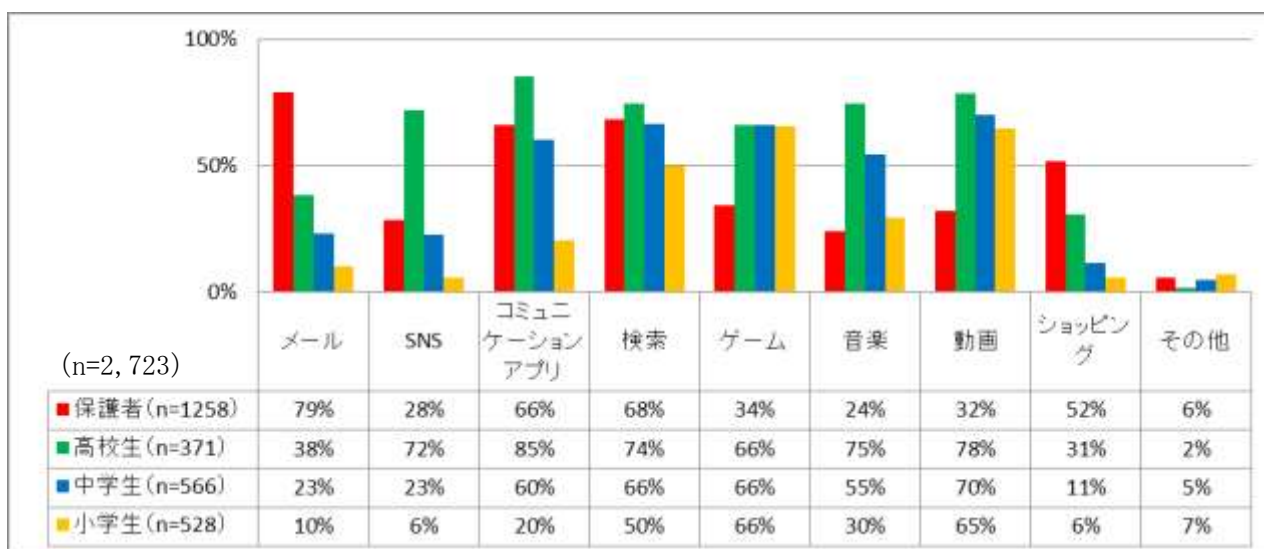
図表 2-3-1 では、保護者と青少年におけるインターネットの利用内容を示しており、保護者はメール (79%)・コミュニケーションアプリ (66%)、高校生はコミュニケーションアプリ (85%)・動画 (78%)・音楽 (75%)・SNS (72%)・ゲーム (54%)、中学生は動画 (70%)・ゲーム (66%)・コミュニケーションアプリ (60%)・音楽 (55%)、小学生はゲーム (66%)・動画 (65%) が上位と、年代毎に利用内容が異なる結果となった。特に高校生のコミュニケーションアプリ・SNS 利用は他の年代よりも高く、メール利用については、保護者以外低い。

図表 2-3-2 では、青少年におけるインターネットの利用期間を示しており、高校生では 88%、中学生では 80%、小学生では 72% が 1 年以上利用していると回答している。

図表 2-3-3 では、インターネットの 1 日の利用時間を示しており、高校生では約 71% が 1 日 2 時間以上、約 10% が 1 日 5 時間以上モバイルインターネット利用している。

また図表 2-3-4 と図表 2-3-5 において、「利用時間と正答率」、並びに「利用期間と正答率」に関して、分散分析を行った。インターネット利用の初期段階では、リテラシーが低い傾向にあり、トラブルが起きやすいことが想定され、また利用時間に関しては、全く利用しないのではなく、ある程度利用経験はあるものの、利用し過ぎず、適度に利用をコントロールできている青少年が、リテラシーが高いことを示しており、今後の啓発活動の指針となりうるデータと言える。

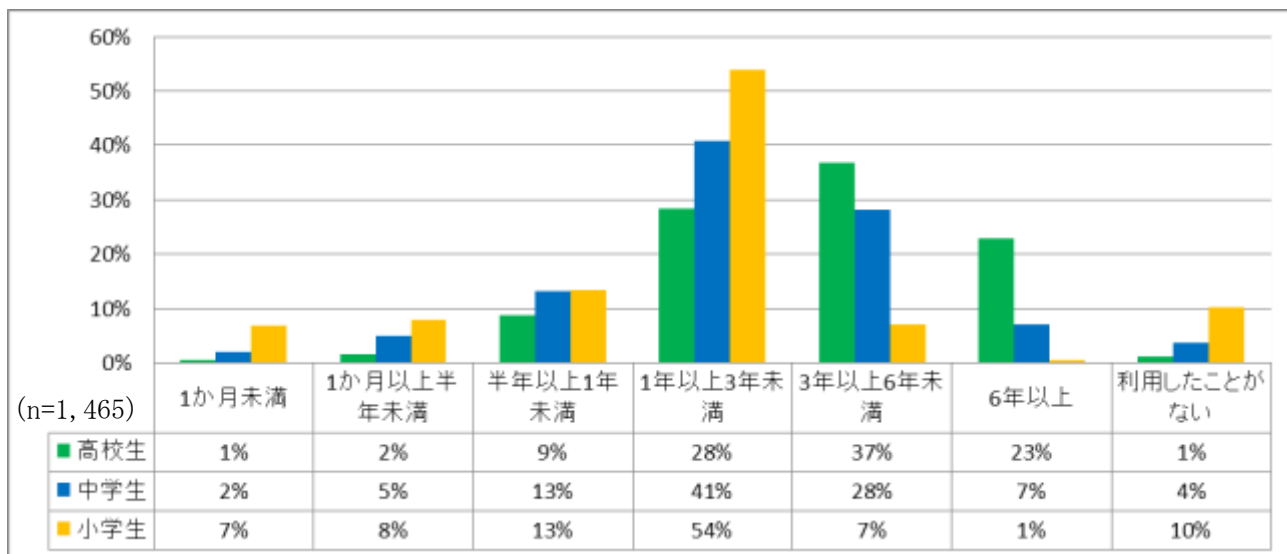
図表 2-3-1. 保護者と青少年におけるインターネットの利用内容 (複数回答)



※SNS (Facebook・Twitter など)

※コミュニケーションアプリ (LINE など)

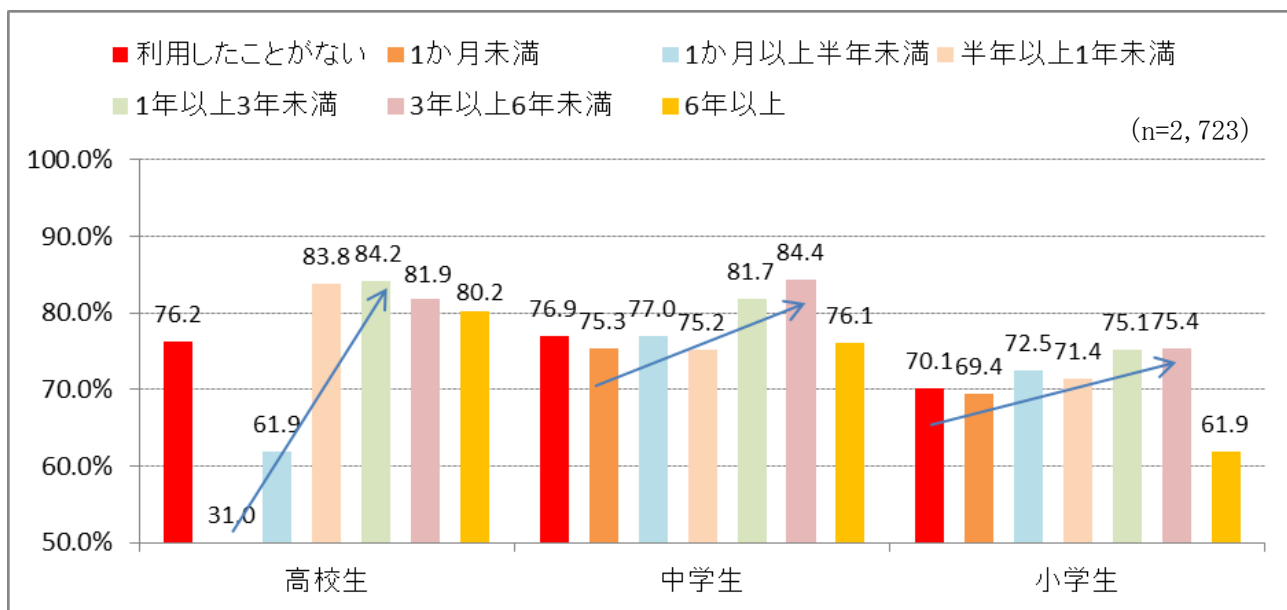
図表 2-3-2. 青少年におけるネットの利用期間



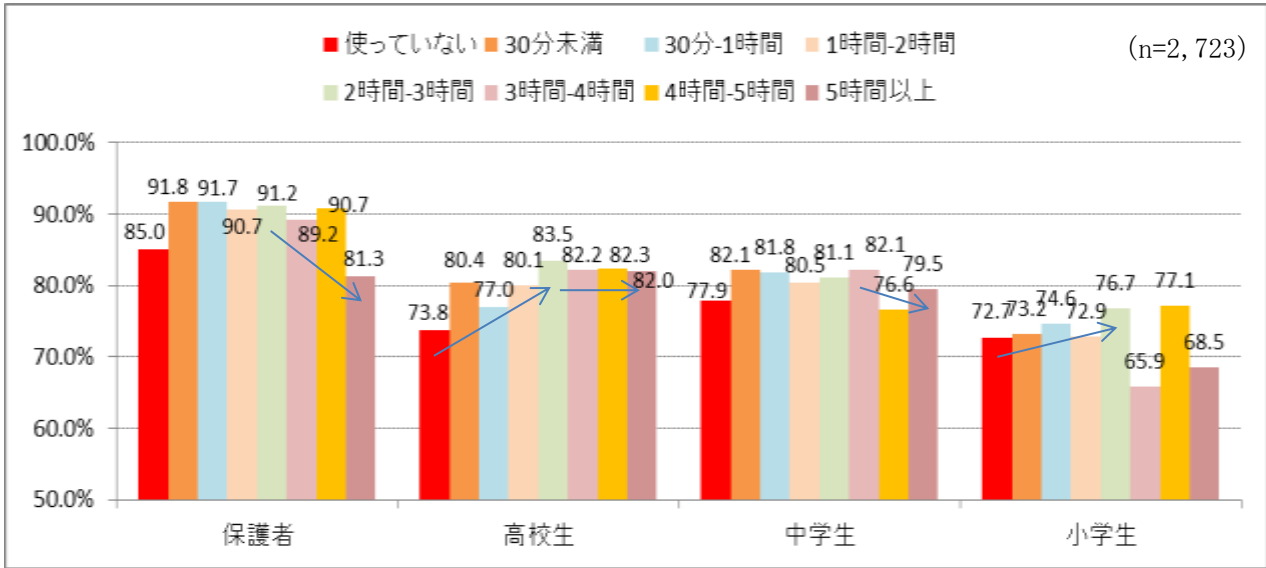
図表 2-3-3. 保護者と青少年におけるインターネットの1日の利用時間



図表 2-3-4. ネットの利用期間と正答率



図表 2-3-5. ネットの1日の利用時間と正答率



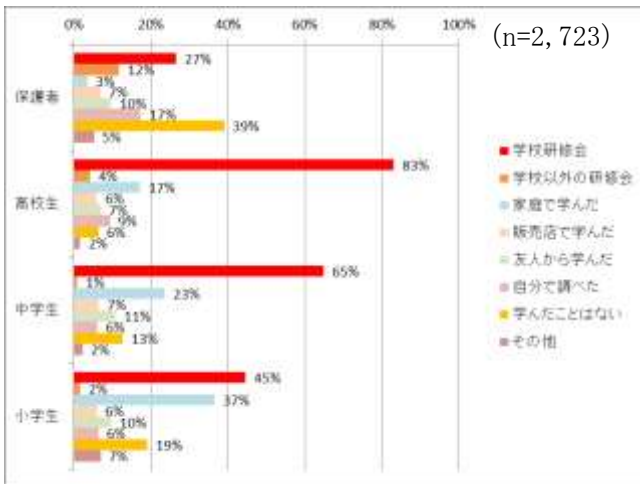
2-4. 対象別×啓発経験別の分析

図表 2-4-1 より啓発教育経験では、保護者の約 39%が「学んだことはない」という回答しており、青少年に比べて高い傾向にある。青少年は学齢に応じて啓発経験率が上がる傾向にあり、小学生のうちは家庭での啓発が多い。

啓発経験と正答率の関係では、青少年、保護者ともネットモラルを学んだ経験がある人のほうがリテラシーも高い結果となった。

図表 2-4-1. 対象毎の啓発経験別の正答率

◆インターネットの啓発経験



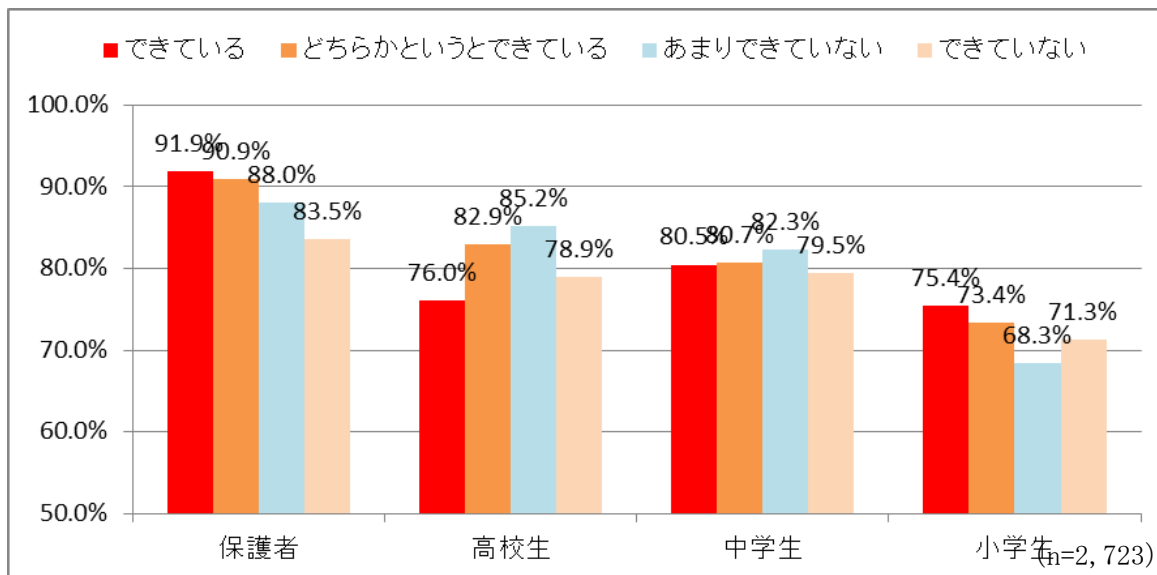
◆啓発経験と正答率



## 2-5. 対象別×インターネットの適切利用自信別の分析

図表 2-5-1 より自分自身がインターネットを適切に利用できていないと回答している場合、正答率も低い傾向にある。

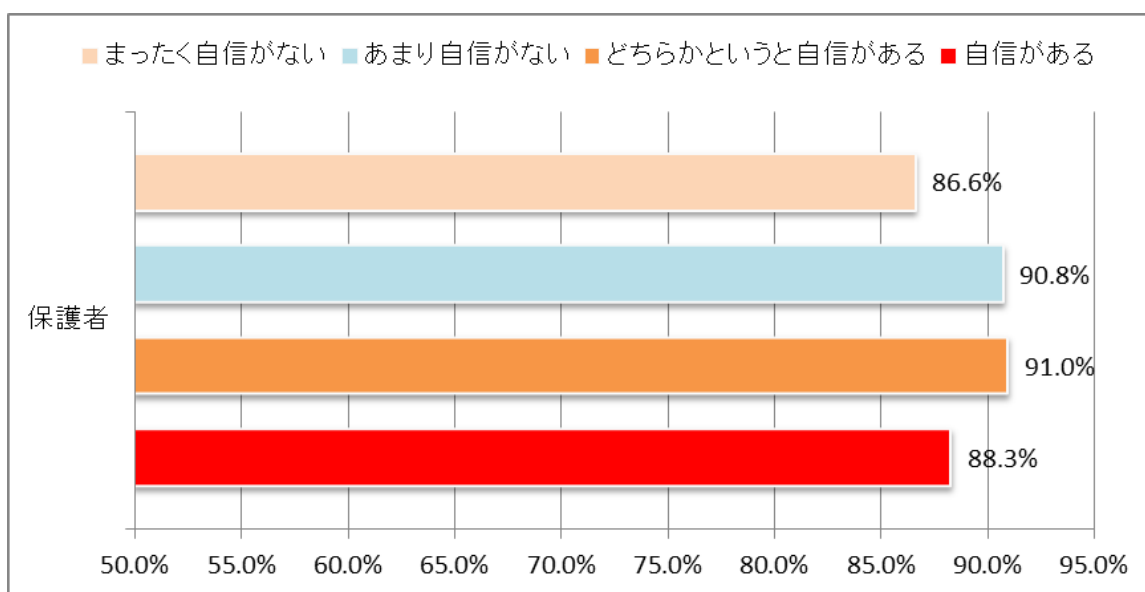
図表 2-5-1. インターネットの適切利用と正答率



## 2-6. 保護者のしつけに対する自信×正答率の分析

図表 2-6-1 より、子供のインターネット（ケータイを含む）利用のしつけについては「まったく自信がない」と回答している保護者の場合、正答率も低い傾向にある。

図表 2-6-1. 保護者の青少年しつけと正答率



## 2-7. その他

図表 2-7-1 より保護者が考える青少年がインターネットを始める適切な時期については、昨年と比較すると小中学生 1～3 年生 (6%→9%)、小学校入学前 (1%→3%) の比率が高くなっている。社会環境の変化により保護者意識も変化してきていると考えられる。

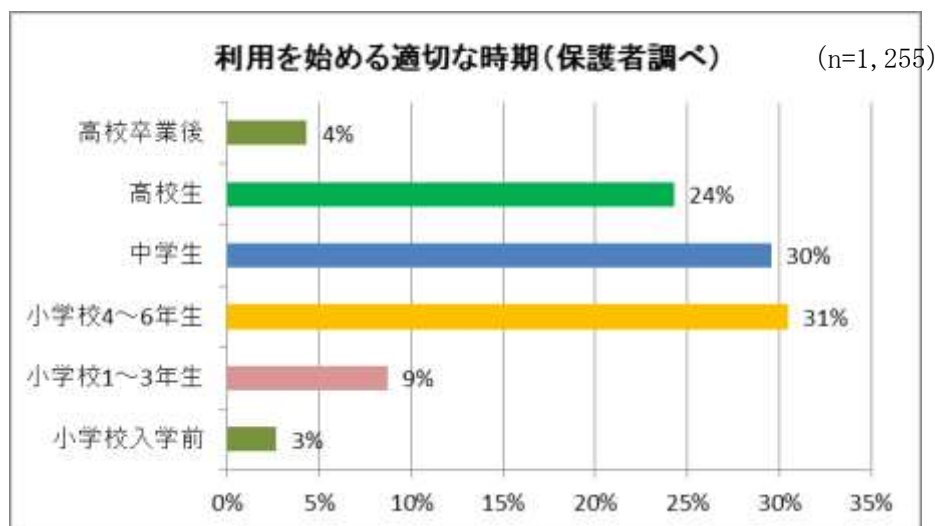
図表 2-7-2 では、青少年がインターネット利用に関して困ったときに相談する相手 (複数回答) を示しており、親の割合が最も多く、年齢が上がるにつれて、友達 (リアル) の比率が高くなる傾向が見られる。

図表 2-7-3 では、ネット依存に対する意識を示しており、高校生の「とてもそう思う」「どちらかといえばそう思う」の比率が高い。

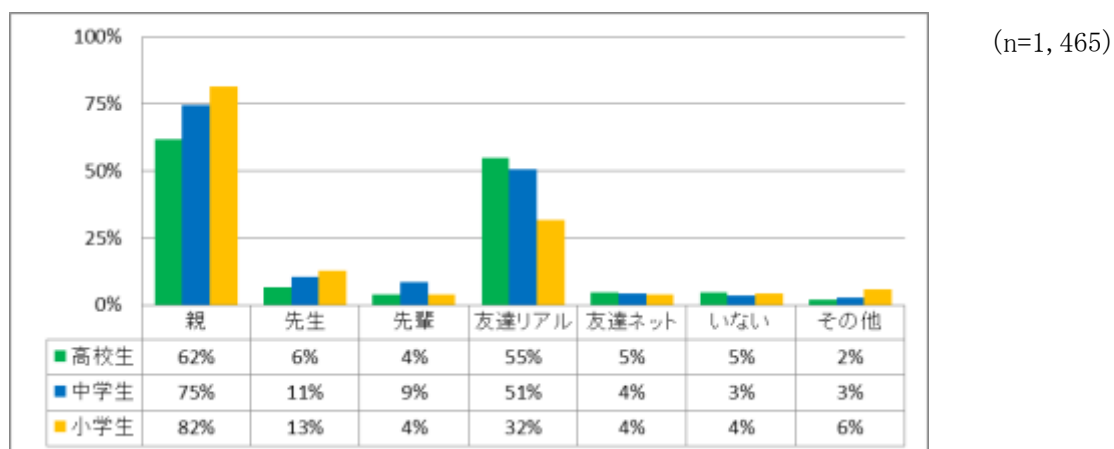
図表 2-7-4 では、ネット依存に対する意識と正答率を確認したが、特徴的な傾向はみられなかった。

図表 2-7-5 では、ネット依存と意識している人の利用時間を確認したが、各年代で利用時間が大きく異なる結果となった。

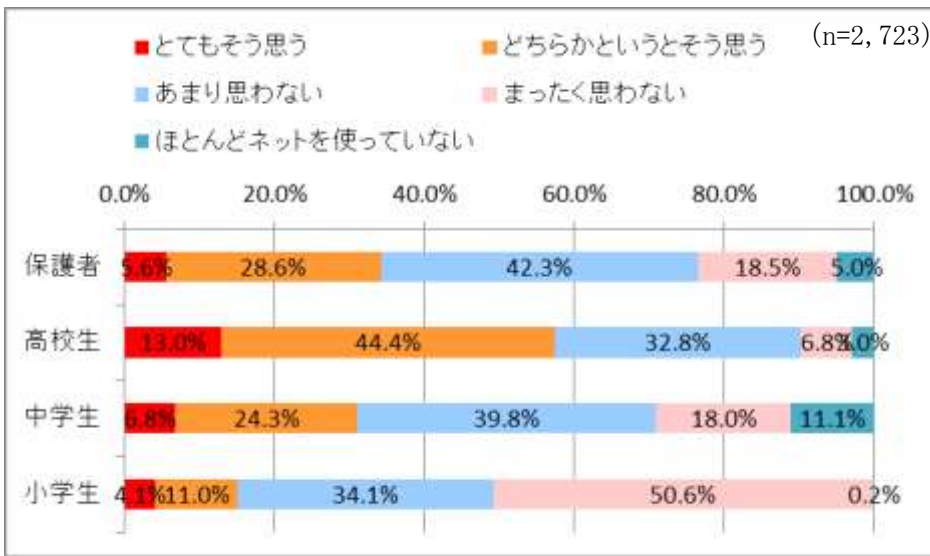
図表 2-7-1. 青少年がインターネットを始める適切な時期



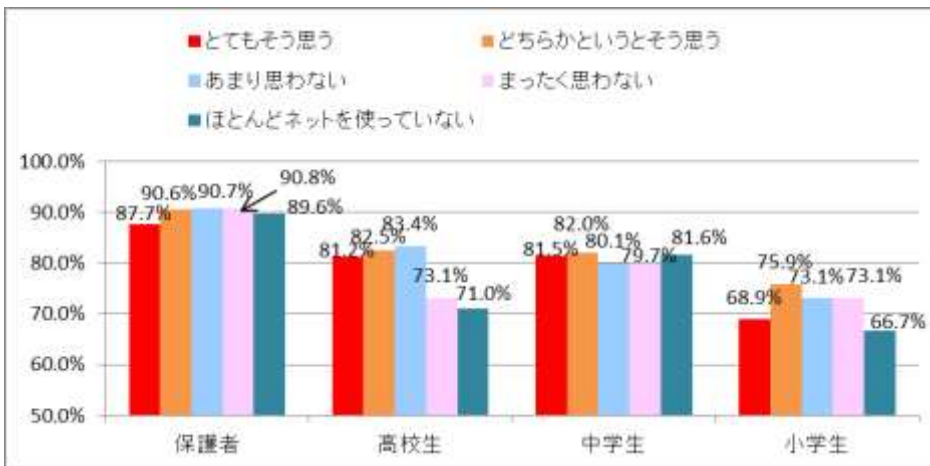
図表 2-7-2. 青少年の相談相手 (複数回答)



図表 2-7-3. ネット依存に対する意識

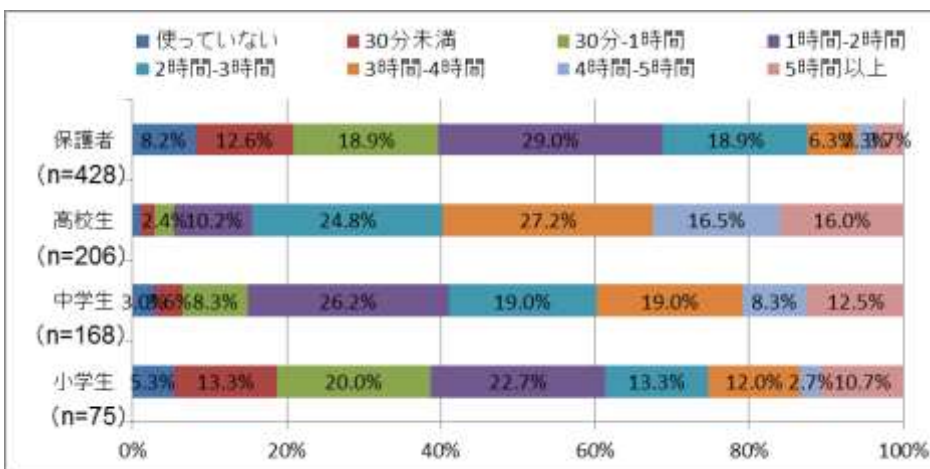


図表 2-7-4. ネット依存に対する意識と正答率



(n=2,723)

図表 2-7-5. ネット依存の自覚とインターネット利用時間 (モバイル)



「どちらかというと思う」「そう思う」と答えた人の利用時間



### **3. 安心協ILASの活動総括**

本年度は安心ネットづくり促進協議会関係者の「青少年インターネット健全利用」への啓発意欲とPTA（日本PTA全国協議会・全国高等学校PTA連合会）等の多大な協力によって、昨年度に引き続き約3千人規模（全体の協力者数3,066名：保護者1,377名、高校生416名、中学生674名、小学生599名）のテスト実施から分析までのとりまとめにつなげることが出来た。

2015年度、2016度にテスト問題と解説を公開したことにより、企業や団体が提供する教材での利用や、学校授業やPTA等の研修会にてネット利用理解度の確認やおさらいの為に「安心協ILAS」を実施する事例も出てきており、「安心協ILAS」の啓発のためのツールとしての有効性が高まってきている。

#### **3-1. 啓発活動への連携**

本報告書「2. 調査結果総論」からの考察、啓発活動への提言は以下の通り。

##### **【保護者に向けて】**

・「安心協ILAS」が定めたリテラシー基準において、保護者のリテラシーは、青少年よりも高かった。この傾向は、経年調査開始した2015年から同様の傾向を示している。このことから、保護者のインターネット・リテラシーが低いとは言えない。

・保護者の子どもに対する指導に十分に自信を持っていないことも指摘されている。その様な問題の要因として以下のことが挙げられる。

- ✓ 親の目の届かないところでの利用に対する適切な指導方法
- ✓ 利用の自由と保護のための制限の適切なバランス
- ✓ 子どもたちが利用している最新機器、最新アプリおよびそこで起きている問題への対処方法

・以上のことから、保護者に対する啓発教育は、知識習得型の教育よりも、最新機器・アプリを介して起きている問題関する事例を伝えること、その対処を伝える解決方伝授型教育やベストプラクティスの紹介が有効になると考えられる。

##### **【青少年に向けて】**

・小学生のテスト問題中の「言葉や内容の意味が分からない」との選択率は、他の年代よりも高い傾向にあった。この結果から、小学生はネットに関連する用語についてはよく分かっていない状況の下で、感覚的にネットを利用していることが考えられる。

・このことから、特に小学生年代においては、デフォルトでセーフティゾーンが確保されているネット利用環境が必要と考えられる。今一度、青少年保護バイ・デザインを考えるべきである。

・年代別の利用サービスをみると、高校生においてはSNSやコミュニケーションアプリの利用率が高く、小学生ではゲームや動画が高く、年代により利用サービスが異なる結果となった。このことから、各年代に応じた啓発教育内容、指導対策を講じていく必要があると言える。

・啓発経験がないと回答した中学生で13%、小学生で19%という結果となった。

・啓発教育経験のない被験者は、受けた経験のある被験者よりもリテラシーが低いと言う結果となった。

・このことから小中学生を中心に、啓発活動を拡充する方策、各地域で啓発活動を実践できる体制の構築、支援が重要になるであろう。

・リスクカテゴリにおいて正答率が低かった項目としては、各年代において「1a 違法情報への対応」の正答率が低い傾向がみられた。特に、小学生においては「3a 適切なプライバシーの保護」「3b 適切なセキュリティの保護」についても低かった。これらのリスクカテゴリにおけるリテラシーの向上の為に、この結果を啓発教育の改善に活かす必要があると考えられる。

#### 【長時間使用といわゆるネット依存について】

・モバイル機器の使用時間は、高校生が最も長時間傾向にあり、続いて中学生、保護者の順となった。  
・パソコンの使用時間では、保護者の使用時間は青少年の各年代よりも長い傾向を示していた。  
・ネット依存の自覚では、高校生の自覚傾向が最も高く、続いて保護者、中学生と続いていた。  
・ネット依存の自覚とネット使用時間のクロス分析では、高校生の平均時間は 3.3 時間であり、中学生は 2.6 時間、保護者に至っては 1.6 時間と、彼らの自覚と使用時間との認識が大きくずれていることが分かった。

・以上のことから、青少年における主要なネットへのアクセス機器はモバイルであると言える。しかし、モバイル機器は、保護者の目の届かないところでの使用がたやすくできることから、利用ルールの設定や、必要に応じて使用時間設定機能などの利用も有効な手立ての一つとなり得るであろう。また、リビングルームでの利用をルール化するなど、保護者が関与できる環境を作っていくことが必要であると考えられる。

### 3-2. 来期に向けた課題

検討課題は「この活動における分析結果を、より多くの対象者に、啓発活動にどのようにつなげていくのか」であり、来期の活動においても、啓発に資する調査内容を検討していく必要がある。

本年度においては基本的には設問の大幅な加除修正は行わなかったが、結果的に平均点は全体、リスク分類共、昨年度と大きくは変わらない結果となった。

上記を鑑み、調査はリテラシーのため継続して実施していく必要があるが、それに加え、啓発現場で使いやすくすることで、実施対象者を増やしていき、啓発側面の効果を拡大していく必要がある。

来年度以降は、啓発側面の状況を踏まえて、利用しやすいテストを、調査用とは別に検討（問題数や実施方法）する必要がある。

#### 4. 来期の活動方針

小中高生の情報モラル授業や PTA 等の研修会にてネット利用知識や理解度の確認と、知らない知識の提供を兼ねた「安心協 ILAS」の実施事例も出てきており、安心協 I L A S の普及啓発のためのツールとしての有効性が高まってきている。

来年度も引き続き小学生から大人まで各対象のインターネット・リテラシーの経年傾向分析を行っていき、啓発ツールとしての活用の拡大に向けては、実施可能かつ短時間で回答できるテスト及び解説集の開発および環境の提供に向けて検討を行う。

##### - 安心協 I L A S の活動方針 (予定) -

- ・研修会やイベント会場で活用が可能な、問題数を絞った安心協 ILAS を展開する。
- ・設問の修正なものは修正を加えるが、リテラシーの経年比較をするために基本的に大幅な修正は行わない。
- ・多くの青少年、保護者に回答いただき、集計を容易にするための仕組みづくり（オンライン版など）についても討議する。
- ・実施対象はバランスよく実施出来るよう進める。

		2017 年									2018 年		
		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
A	テスト問題確認作成			■	■								
B	アンケート作成				■	■							
C	解説集の作成				■	■							
D	実施地の決定				■	■							
E	テストの実施						■	■	■				
F	データ分析 (中間)									■	■		
G	個別フォードバック											■	■
H	最終報告書作成												■
I	啓発版の検討、修正	■	■	■	■	■	■						
J	啓発版の試行実施			■	■								
K	啓発版の提供							■					

## 5. 安心協 ILAS の本年度活用事例

### 5-1. 普及啓発ツールへの活用

#### (1) 「iFILTER」(デジタルアーツ株式会社)

ー 1日1問、初回のインターネットアクセス時に情報セキュリティに関する選択問題を表示し、合格して初めてインターネットアクセスを可能にする「Test Board」を搭載。「Test Board」に搭載されているサンプル問題に安心協 ILAS 提供。

<http://www.daj.jp/>

#### (2) 「Fili (フィリー)」(エースチャイルド株式会社)

ー 自分のネットリテラシーの確認のため、1週間1問、リテラシー向上クイズ形式に回答。リテラシーの低い分野に関して、保護者に一般的な注意喚起と対策情報を提示

<https://www.fili.net/>

#### (3) 「ネットスキル診断」(KDDI 株式会社) 2

ー WEB 上でクイズ形式の設問に答えることで、インターネットを安心・安全に利用するための知識を深めることができる。

ー テスト結果に応じたアドバイスが表示されるため、保護者の方がお子さまに安心・安全なインターネットの利用を促す一助としても活用可能。

<http://www.kddi.com/family/shindan/index.html>

#### (4) 新入生向け情報リテラシー研修教材 (日本赤十字広島看護大学)

新入生向け情報リテラシー研修で使用している資料(インターネット利用ハンドブック)に「安心協 ILAS テスト(中高生)」の一部(6問程度)を掲載。

### 5-2. 情報モラル研修の前に実施し現状把握、事後に実施しおさらいに活用

ー 白河市教育委員会

#### ○目的

子どもと保護者の「インターネット利用理解度」の確認を行い、市で推進している「情報モラル教育」の資料とする

○対象者：白河市内の小学校5年生、中学校2年生の児童・生徒及びその保護者